

「知事とみんなの愛顔でトーク」における意見・提言の県施策への反映事例

【30年度】

年度	地方局	テーマ	意見・提言の概要	県施策への反映状況
30	中予 地方局 (松山市)	安全のため自転車通学路にブルーラインを引くことについて (自転車通学路の安全対策)	本校は中等教育学校なので小学校から入学したての中学1年生が自転車で通学する姿を見てヒヤッとする人が多い。学校の立地が中央卸売市場に近く交通量も多く、特に裏門付近には分離した歩道もないので自転車道の整備をお願いしたい。しかし、用地の買収等を考えると長い時間がかかるので、松山市内のようにブルーのラインを引いたりとかすれば通行する自動車も自転車にもっと気を付けてくれるようになるのではないかなと思う。	平成25年に松山市自転車ネットワーク計画を策定し、各道路管理者が該当路線について、自転車道、自転車専用通行帯及び車道混在(矢羽根等を設置)の整備に取り組んでいるところであり、松山市においては、中心部から内環状線までのエリアを優先し、自転車走行環境整備を行うこととしている。 今回、要望のあった県道和気衣山線及び裏門から県道交差点までの市道については、今後の計画見直し時に計画区域に含める予定であるが、通学時には多くの自転車と自動車が輻湊し、危険な状況であるため、市、警察とも協議を行った結果、今年度中に車道路面に「矢羽根」と「自転車ピクトグラム」を設置することとし、31年2月14日に設置が完了した。 【土木部】
	中予 地方局 (松山市)	外国人観光客の愛媛への誘致方法等について (「初めての海外旅行応援キャンペーン」の対象者の拡大)	海外の観光客はまず東京に来て、そこから地方都市である大阪、奈良、京都、広島まで行くが、そこから愛媛県に来る観光客がそこまで多くないと思う。まず一番近い広島から愛媛に気軽に来れるようにしたらいいと思うが、何か対策をすることはできるか。 (知事から、 ・海外からの直行便や成田・関西とを結ぶLCCを就航させる戦略により、ここ数年で成田-松山便、関西空港-松山便、平成29年11月からLCCのソウル-松山便が就航しており、ソウル便はほとんど韓国からのインバウンドである ・愛媛の若者にも、気軽に行ける料金体系のLCCに乗って、積極的に海外を経験してもらいたい ・高校生も「初めての海外旅行応援キャンペーン」の対象となるよう検討する 旨回答。)	松山空港利用促進協議会(事務局:愛媛県国際交流課)では、県内在住の若年層(18歳から29歳まで)の方を対象に、松山空港国際定期便を使って初めて海外旅行する場合、旅行代金が5,000円引きとなる「初めての海外旅行応援キャンペーン」を実施し、若い方々のパスポートの取得を後押ししてきた。 松山-ソウル線が増便となったことなどを機に、平成30年11月からキャンペーンの対象者を小学生以上に拡大するとともに、松山空港発着の国際チャーター便も対象とした。高校生や大学生などパスポートをまだ持っていない方には、家族旅行や卒業旅行などで活用するよう呼びかけている。 【経済労働部】
	東予 地方局 (西条市)	教育施設の空調等環境設備の整備について (県立高校等の空調設備の整備)	7月より暑い日々が続き、熱中症患者も多く病院に搬送されているというニュースが連日報道されている。また、西日本豪雨の被災地の復旧も緊急の課題だと思う。 災害が起こったときの避難所として、高校の体育館が割り当てられているところも多いと思うが、夏や冬は被災者が快適に過ごせる場所だとは到底思えない。そこで、教育施設の環境設備についてどのような話し合いが進められているか教えてほしい。 (知事から、 ・県立学校については、特別支援学校の空調設備を優先して整備する予定 ・県立高校については、できるだけ100%に近づくよう検討していきたい 旨回答。)	県内の県立学校等へのエアコンの設置予定は次の通り。 <特別支援学校> 今年度中に、普通教室・特別教室ともにエアコン設置率が100%となる予定。 <高校及び中等教育学校> 平成30年9月1日現在、普通教室へのエアコン設置率は76.4%で全国32位。 今後、まずは普通教室について、エアコン設置率が100%となるよう、平成31年度当初予算案に必要経費を計上している。 (参考) <小中学校> 30年9月1日現在、県内小中学校普通教室の空調設置率は34.1%で全国30位。 全国的な猛暑への対策として、文部科学省が今年度「ブロック塀・冷房設備対応臨時特例交付金」を創設しており、市町の教育委員会には、この機会に事業を推進するよう助言・情報提供しているところ。 現時点では普通教室への空調設置が完了していない市町の全てが、空調設置事業を予定しており、県全体での設置率は大きく伸びるものと見込まれる。 【教育委員会】

【29年度】

年度	地方局	テーマ	意見・提言の概要	県施策への反映状況
29	中予地方局 (久万高原町)	障がい者災害時支援バンダナについて	障がい者災害時支援バンダナというのを越谷市がつくっている。バンダナの四隅にそれぞれ体が不自由、目が不自由など必要な支援が印字してあり、災害時などに、自分が必要なところを三角が背中に出るよう首から巻くだけで、どんな支援が必要なのかが分かる。愛媛県はイメージカラーもオレンジで目立つし、みきゃんを真ん中に、ぜひ県内でつくっていただきたい。布なので三角巾にもなるし、ちょっと肌寒いときには羽織れるし、かばんの中に入れても邪魔になるものではないので、検討いただけたらと思う。	障がい者災害時支援バンダナについて、県身体障害者団体連合会に作成を打診したところ、同会において30年度に取り組む方向で検討が進んでいる。(「三浦保」愛基金活用予定) その他、県では、市町との連携により、災害時に障がい者が必要な支援について意思表示するための「ヘルプカード」や、外見ではわかりにくい障がい者が支援や配慮を得られやすくする「ヘルプマーク」の配布を実施している。 【保健福祉部】
	中予地方局 (久万高原町)	子育てサロンのネットワークづくりについて	地域の子育てを少しでも応援しようと、小学生、乳幼児とその保護者を対象に毎月1回集会所で子育てサロンを運営している。現在は40歳代から60歳代の女性スタッフ五、六名で運営しているが、なかなか人材が育たず、また、人材不足もあり地域の要望はあっても実施回数を増やすことができない。 県への要望であるが、研修会や他の子育てサロンとの情報交換等のために、ネットワークづくりにご尽力をいただきたい。それによりスタッフの質の向上を図り、活動内容や運営をより充実させることができると思う。	要望を踏まえ、管内の市町や子育て支援団体等との意見交換や子育て支援グループへのアンケート調査を行った結果、グループ間の交流・情報交換は有意義との意見が多く寄せられた。このため、中予地方局管内において、グループのネットワーク化による人材育成や活動情報の発信を支援することを検討している。 【中予地方局】
	南予地方局 (内子町)	サイクリング振興等に向けた県道宇和野村線の規制緩和等について	西予野村地域でのマラソン大会やサイクリング文化の振興に努めているが、県道においては大会の標識の設置の禁止や、距離表示看板についても、審査が必要である。大会をさらに盛り上げ地域活性化していくよう、県道での交通の支障にならない範囲でののぼり旗の設置についての規制緩和を求めたい。	道路は一般交通に使用される施設であるため、県管理道路の占用については、占用許可基準に基づき、道路本来の目的を阻害しない範囲でのみ認めているところ。 のぼり旗については、信号機や道路標識の効用を妨げたり、道路交通の安全性を阻害する恐れがあることから、原則として道路占用を認めていなかったが、今回の意見をもとに再検討した結果、平成29年11月からは、公益性や安全の確保など一定の条件を満たす場合に、一時的な占用を認める取扱いとし、所管する西予土木事務所に相談していただくこととした。 【南予地方局】
	南予地方局 (内子町)	愛媛のヒノキのPR等について	この前の南予のいやし博で、仕事マルシェでカンナ削りをして欲しいとの依頼があり、大洲の朝もやで子どもたちと一緒にした。今後もどこかのイベントでそういった機会をつくっていただきたい。そうすることによってヒノキのPRにもなれば愛媛の山を守る、地産地消にもつながり自然も守れる、地域の活性化にもつながっていきたいと思っている。 また、愛媛でもう一度、「削ろう会(カンナを使ってどれだけ薄く削れるかというのを競う競技)」を開催したい。大工だけでなく、家づくりの模型を子どもたちと一緒につくったり、左官業の泥団子づくりであったり、家づくり全般を知ってもらうためのイベントにもなっており、愛媛県のPRもしたいと思っている。	事前に、県庁森林局及び八幡浜支局森林林業課並びに発言者と打ち合わせの結果、平成29年11月18日～19日に実施された「えひめ松山すごいもの博(産業祭)」に出展し、カンナ職人の技術を、県民に広くアピールすることができたところである。 なお「西予ヒノキ」の普及も兼ね、別途、地元西予市や八幡浜市の産業祭や、三瓶高校での文化祭に発言者を招くなどして、幅広くその活動のPRに努めているところである。 今後も、発言者をはじめとする、大工技術を含めた、県産木材「媛すぎ、媛ひのき」による家造り等を宣伝・広告して参りたい。 【南予地方局】
	南予地方局 (内子町)	伊方の観光・地域振興の新たなアイデアについて	伊方町のメロディーラインについて、以前知事から、「メロディーラインという名前が付いてるんだったら、1曲と言わずに3曲ぐらいやったらどうか、あそこは夕日や佐田岬の灯台の恩恵、豊後水道の魚、いろんな仕掛けができるんじゃないか。いろいろアイデアを考えてみたい」というふうなお話があった。ちょうど今年佐田岬灯台点灯百年の記念の年でもあるので、ぜひ、あらためて前向きな検討をお願いしたい。	「メロディ道路」の追加については、各関係機関との協議、及び、地元調整を行った結果、新たに2カ所を追加する運びとなり、工事を平成30年2月に実施し、3月8日に完成記念式を開催する予定となっている。 この取り組みが、今後、南予の観光振興、地域の活性化に繋がっていくことを期待している。 【施工箇所】 ①八幡浜市保内町宮内(三崎方面向き):「瀬戸の花嫁」 ②伊方町三机(三崎方面向き):「うみ(童謡)」 【南予地方局】
	中予地方局 (松山市)	中山栗等を全国で勝負できる特産物にする方法について	自然豊かな中山町には、中山栗をはじめとする全国でも戦えるような特産物があるが、現状では、発展させるためのスタートラインにも立てていないような気がする。全国で勝負するためには何をして、どんなことが必要になるのか意見をいただきたい。	県では、中山栗等、特産物を活用した商品開発は、集客に有効と考えている。このため、商品化に必要な中山栗を長期に渡り安定的に供給するため、関係団体と連携して産地力の向上を図る方策を検討している。 また、伊予市でも、スマートインターチェンジ設置を地域活性化を図るチャンスと捉え、人を呼び込む目玉商品の必要性を認識しており、地元の方々と栗を活用したスイーツ等の開発を行う事業を検討しており、県としても市の取組みをバックアップしてまいりたい。 【中予地方局】